

様式第 3 号(第 4 条関係)

会議録

■附属機関等の会議の名称

第 1 回篠山市原子力災害対策検討委員会

■開催日時

平成 2 4 年 1 0 月 2 4 日(水) 1 4 時 0 0 から 1 5 時 5 0 分まで

*受付時間(1 3 時 3 0 分から 1 4 時 0 0 分まで)

■開催場所

篠山市民センター 研修室 5

■会議に出席した者の氏名

(1) 委員 13 名

(2) 執行機関事務局 2 名

(3) その他 0 名

■傍聴人の数

0 名 (記者 4 名)

■議題及び会議の公開・非公開の別

公開

■非公開の理由

なし

■会議資料の名称

資料- 1 篠山市原子力災害対策検討委員会設置要綱

資料- 2 会議の傍聴及び会議録の作成・公開について

資料- 3 篠山市原子力災害対策検討委員会説明資料

資料- 4 篠山市地域防災計画 (原子力災害対策計画) の策定方針

資料- 5 篠山市原子力災害対策検討委員会のスケジュール

■会議次第

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 委嘱状の交付

4. 委員紹介

5. 篠山市原子力災害対策検討委員会設置要綱について (資料-1 参照)

6. 会議の傍聴及び会議録の作成・公開について (資料-2 参照)

7. 委員長・副委員長の選出

8. 議 題

①篠山市の現状と背景について (資料-3 参照)

②篠山市地域防災計画 (原子力災害対策計画) の策定方針について (資料-4 参照)

③篠山市原子力災害対策検討委員会スケジュールについて（資料-5 参照）

9. その他

10. 閉会

■会議録（要点録）

1. 開会

2. 市長あいさつ

原子力のこれからの在り方について国民あげでの議論になっているが、私は、原子力に頼るべきではないと思っている。こういったあり方とは別に、もしも事故が起こった場合に、どうしたらよいかを皆さんに考えてもらう会議となる。

本市には、篠山市環境みらい会議というものがある。そこでは、原子力のあり方について議論してもらっているが、それを踏まえて篠山市で検討したいと思っている。

福井県の前原から非常に近いところにあるから、いままで他人事だったが、基礎的な知識から、いざという場合にどのような対応を取るのかななどを議論してほしい。準備をしているのとしていないでは大きな違いがあるので、できるだけ取り組みをしていきたいと思っている。

3. 委嘱状の交付

4. 委員紹介

5. 篠山市原子力災害対策検討委員会設置要綱について（資料-1 参照）

6. 会議の傍聴及び会議録の作成・公開について（資料-2 参照）

7. 委員長・副委員長の選出

委員長に平野委員、副委員長に森口委員

8. 議題

①篠山市の現状と背景について（資料-3 参照）

A委員 先ほど、南丹市で100mSvを超えるという国のシミュレーションが国の規制委員会から発表があったとの情報があったが、この委員会での想定は、こういうものを踏まえたものになっているのか。

委員長 今回の委員会は、そういったことを踏まえた防災計画を策定することとしている。

②篠山市地域防災計画（原子力災害対策計画）の策定方針について（資料-4 参照）

B委員 国会の事故調査委員会の報告書などいろいろな指摘がされており、原子力規制委員会において、いろいろ検討されると思うが、国会事故調査委員会の報告の内容とこの原子力災害対策検討委員会での議論とリンクさせていく部分はあるのか。

- 事務局 事故調査報告書での問題点は、原子力規制委員会がそれを踏まえたいう
えで、防災指針が見直されるものと考えている。
- C委員 今回の策定方針の中で、国や県の計画と整合させるという表現があっ
たが、そもそも、東日本大震災では、8から10kmで想定があつて、
それを信じていたので対策ができなかったと思う。今後、国や県が策
定する計画と整合させるだけで十分なのかということは考えられる
と思う。
- D委員 篠山市独自の情報の収集とか、考察などを大事にしたいと思う。篠
山市はPPAに入るとの説明があつたが、それで十分なのか。国や県
の方針と相違しても、篠山市民の安全を第一に考え、篠山市独自の対
策をとることが必要だと思う。
- D委員 3. 11以降、日本は法的にも無茶苦茶になってしまった。防災指
針の見直しがされていないのに原発が動いている状況である。あらか
じめやっておかなければならないことはたくさんある。一つ一つを見
える化しながら取り組んでいく必要があると思う。
- E委員 東日本大震災では、情報が正確に伝わらなかった。県境を越えた近
隣の自治体間で、情報収集などのシステムを考える必要があると思
う。
- D委員 シミュレーションの結果が同じでも、自治体によって評価が違つて
も構わないのか。篠山市独自性を持った結論を出される覚悟があるの
か。
- 委員長 国や県の計画と全く相反するものは難しいが、基本的に市として取
り組んでいくものがあれば、独自性も打ち出せればと思っている。
この委員会で打ち出されたものについては、市長の思いも確認しな
がら、また、議会においても検討してもらい、どのように盛り込んで
いくかを最終的に決めていきたいと思う。
- E委員 また、広域での自治体間の支援の取り組みについては、大丹波連携
という隣接する京都府の自治体と観光等の協力関係を築いているの
で、災害にも有効に活用できることがあると思う。
- E委員 一番の対策は、避難対策ではないか。ヨウ素剤の服用というのものも
あるが、飲む時期、量、副作用などのこともあるので、まずは、避難
することだと思う。
- B委員 自然エネルギーを生かした地域づくりも大切ではないか。災害時に
も地域で生み出されるエネルギーがあれば有用だと思う。
ヨウ素剤の服用も検討すべきと思う。

③篠山市原子力災害対策検討委員会スケジュールについて（資料-5 参照）

- F 委員 第2回委員会は何を検討するのか。
- 事務局 第2回については、市として早急に取り組まなければならないことを議論してもらう予定である。
- F 委員 具体的な対策を検討できるように、会議のための会議にならないように事務局には準備をお願いしたい。
- 委員長 検討項目や資料は当日に知らされるのではなく、事前に検討できるように十分な期間をとって配布してほしい。
- 委員長 2回目の委員会までには、具体的な検討をしていただきやすいような体制を作っていきたい。委員会の数日前には、どのような議論が行われるのか、資料も含めて事前にお知らせする。
- B 委員 情報伝達情報だけ、あるいは、ヨウ素剤の配付だけでも、相当の議論ができると思う。
- A 委員 風向きの話があったが、原子力発電所の方角からの風向きが少ないから、対策を講じなくてもよいというのではよくないのではないか。
- B 委員 東日本大震災時には、ドイツが早々に放射能拡散シミュレーションを作っていたのに、日本国民には、ほとんど知らされることはなかった。福島では、何が機能しなかったのかなど、福島の事故対応を検証せずに対策を講じるのはどうかと思う。
- D 委員 市民に情報を伝えるしくみも必要と思う。
- D 委員 風向きだけではなく、地形にも影響される。篠山市を考えた場合、風がどのように流れるのか、このようなことも考えておく必要がある。放射性物質に対する情報システムの構築なども出ていたが、篠山市の予算規模などを考えたときに、それをクリアするのは少し難しいと思う。
- F 委員 原子力発電所で事故が起きたときに、それに対する対策を検討することが篠山市に求められることではないかと思う。本質は、篠山市の原子力災害対策であり、福島県の原因事故の調査ではない。
- D 委員 この委員会で、どのようなことが議論されているのか、市民の皆さんに広く知ってもらう必要がある。だから、市民への広報を積極的にやってほしい。
- B 委員 福島の事故対応は、検証するべきだと思う。福島では、ヨウ素剤を飲むようにという指示の伝達ができなく多くの子供たちが甲状腺被害を受けている。こういった福島の失敗を議論せずに、何の対策ができるというのか。
- 委員長 いろいろな議論をいただきましたが、篠山市が原子力防災に必要な

対策を検討するということでは、大きな違いはないと思うので、次回、さらに具体的な対策について議論を深めていきたいと思う。

9. その他

10. 閉会